

## 研究室訪問記 2017年度 奨励研究助成 情報

訪問日 2018年10月29日

室蘭工業大学 大学院 工学研究科 しくみ情報系領域 小林 洋介 助教

研究題名：「よく聴こえる」拡声システムのための音声合成システムの構築

研究紹介文にもとづき、助成対象となったご研究の詳細を伺いました（図1）。

以下は主な質疑応答です。

### ご研究を始めた契機はなんですか？

近年、地震や豪雨など、大規模な災害が起こっています。そういった状況において、情報伝達は非常に重要です。緊急度を要する情報伝達の手段の一つとして屋外に設置された拡声器を用いて伝達を行う方法があります。しかしながら必ずしも聴き取りやすいものではなく、実際には「聴こえなかった」や「聴き取りづらかった」などの声があるのも事実です。私は音声の品質を測るという研究を通じて、音の良し悪しを理解する中で、ではどうすれば、「聴き取りやすくなるか」を提案すべきだと考え、この研究を始めました。

### ご研究の独創性を改めてお伺いします

いわゆる音の研究では、元の音にどれだけ忠実かといったことが評価されます。私は情報伝達といった原点に戻り、音の忠実さよりも、意味の忠実さが重要だと考えこの研究を行っています（図2）。音の忠実さにこだわらない研究は珍しく、私の研究の独創的なところといえます。

### 実用化されると暮らしはどう変わりますか？

まずは屋外拡声器による情報伝達がより伝わりやすいものになります。またこの技術を活用して、聴き取りにくい音を変換する装置や、声の質を変える装置ができるかもしれません。音以外にも時間の変化に伴って変化する情報の処理に使えます。これまであまり情報技術が活用されていなかった局所的な洪水予測などにも活用できると考えています。

### 研究者を志したきっかけを教えてください

社会には目に見える課題と顕在化していない課題があります。基礎研究で得られた技術を社会課題の解決につなげたいとの想いで研究を続けていたところ、いつの間にかそれが自分の仕事になっていました。

### 研究活動の面白さは何ですか？

他の人がまだ気が付いてない何かに、先に気づくことが楽しいです。

## 後進の方に伝えたいことは何ですか？

いろいろな人と話をして自分から提案できる存在になってほしいです。そのためには何か一つを極めること、得意を作ることが重要だと思います。それはトップを目指すということではありません。専門と違う分野でその得意なことを活かし、少し将来の現実を変えられる存在になるのは素晴らしいと思います。

## 後記

情報科学の分野では優れた技術を独占するのではなく、広く使ってもらうことに価値があるということです。今回お話を伺う中でも使える技術に対するこだわりを感じました。先生が目指す研究の形は、今ある技術をそのまま使うというのではなく、有機的につないで新たな価値を生む。何十年も先の世界ではなく、十年先の世界を変える技術を作ることです。近い将来先生の研究成果が世の中で広く活用されることを願っております。

(技術部長 鳥越昭彦)

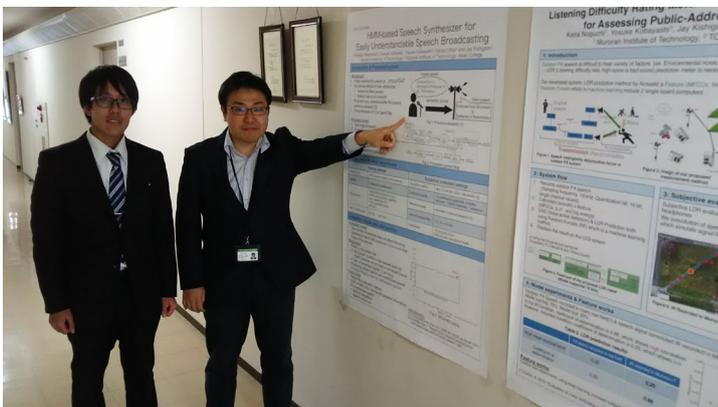


図 1: 右が小林洋介先生

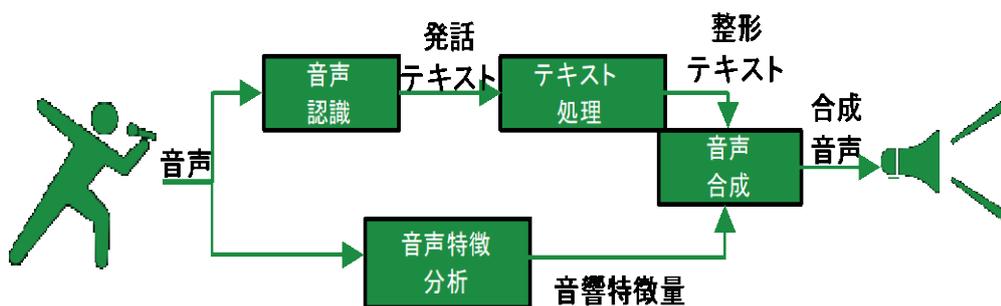


図 2: 本助成で研究しているシステムの処理フロー